

令和元年5月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和元年5月14日（火）午後1時～午後1時40分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、河北新報、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、置賜日報デジタル

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 上杉まつりの観光客数が好調でした。さらなる観光客増に向けた取り組みをどう考えますか。
- (2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、令和元年5月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。この度は、「上杉まつりの観光客数が好調でした。さらなる観光客増に向けた取り組みをどう考えますか」という質問を頂戴しております。全体を通してお話しさせていただきますが、すでに発表しておりますように、今年度は38万1千人の観光客入込がございました。この要因として、10連休という大型連休があったこと、そして、何よりも天候が良かったということが挙げられます。また、東北中央自動車道の南陽高畠IC～山形上山IC間が開通したことも、米沢以北の交通量増につながったのかなと思います。ちなみに、上杉まつりで最大の入込だったのが、平成21年の「天地人」放映の時であり、その時が44万人でした。そして、平成22年が38万7千人でしたので、今回の38万1千人はそれに次ぐものということで、上杉まつりの開始以来、三番目に多い観光客数であったといえます。

また、大型連休中には、平成から令和への改元という祝賀的なものもあり、おまつり期間中、私も毎日のように上杉神社にいましたが、参拝客が列をなしていたという状況はこれまでにないことなのかなと思います。その時、話題になった御朱印をもらうために並んだということもあったようですので、初詣の時と匹敵するほどの列をなしていたのを見ており、そういった意味ではうれしく思いました。

自動車での来場だけでなく、山形新幹線の福島―米沢間の実績でいいますと、14万5千人で前年比120%という状況となっております。先ほども申しあげましたように、米沢以北からの自動車の流入も多く、これも高速道路が開通した効果かなと思っております。特に、ラーメン店や牛肉専門店に観光客が並んだといわれておりますし、また、宿泊も周辺の施設はほぼ満室だったとのこと。

観光客増加に向けての取り組みということではありますが、観光客数増の要因のひとつとして高速道路の開通があります。特に米沢―福島間は無料の道路ですので、さらに高速道路を利用して来ていただけるような対応に取り組んでいかなければならないと思っております。また、道の駅米沢も好調に来場者数が推移しております。お客様に来ていただけるような磨き上げを常に心がけ、アクセス米沢ともしっかりと連携を取りながら進めていきたいと思っております。また、道の駅米沢は定住自立圏や置賜全体の観光とも連動しておりますので、道の駅から置賜全体に周遊する効果的な手法についても考えていかなければならないと思っております。

ちょうど上杉まつりの前に、新たな観光拠点施設として、カフェ「上杉伯爵邸 和庭」をオープンさせていただきました。上杉文化エリアも意識しながら、今後も一定程度整備もしていかなければならないと思っております。利便性も含めて、このようなことも少しずつ充実をさせていき、米沢の文化をどう発信していくかということにこれからも力を入れていきたいと思っております。このことはすでに記者の皆様もご承知のとおりですが、インバウンド対策ということもありますので、米織や甲冑の着付け体験などの情報をいろいろな媒体で発信し、少しでも多くの海外の皆様に来ていただきたいと思っております。

また、来年東京オリンピック・パラリンピックが開催されて、近くでは福島が野球会場となっております。そういった連携も含めながら、オリンピック観戦に来ていただいた方も米沢に来ていただけるような取り組みもしていきたいと思っております。新年度予算の中で言及させていただきましたが、福島市と米沢市に跨る磐梯朝日国立公園内にトレイルルートを整備することにしておりますので、これについても、米沢の温泉と組み合わせながら取り組んでいきたいと思っております。

インバウンド対応ということで今年度は新たに英語圏の国際交流員も配置することになっております。8月5日頃から着任する予定となっておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、今年で4年目となる「台北温泉まつり」への出展によるお互いの交流も進めていきたいと思っております。また、4月24日には、香港のテレビ局に米沢の観光・体育施設や、天元台スキー場なども取材していただきましたので、また新たな取り組みもできるのではないかと考えております。

実は昨日まで香港に4日間ほど滞在しておりました。米沢の中学生・高校生を連れてフェンシングの大会に参加させていただきました。米沢での取材について、改めて香港のテレビ局と検討していきたいということもあり、現在打ち合わせを進めておりますが、今月中にもう一度取材に来ていただけるということもありました。今後、観光だけでなく、教育旅行についても是非米沢で行いたいというお話もいただいております。

りますので、受け入れ体制の整備もしていかなければならないと考えているところであります。

ブランド戦略で言われているように、来市するたびに観光の内容が同じということではリピーターにはつながらないと思いますので、一つ一つのものを磨き上げ、その度に米沢変わったねと思っていただけるようにしなければなりません。高速道路が開通した初年度だけという一過性の対応では良くないですので、そういった意味で、ブランド戦略と連携をしながら、ヒト・モノ・コトの磨き上げをしていく必要があるのかなと考えているところであります。

○秘書広報課長

質問に対する市長からの回答は以上となります。質疑がありましたら幹事社を中心によりしくお願いします。

○幹事社

はい。今の内容に関連して、質疑のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

最後のところで、リピーターをどう取り込んでいくかということで、変わったところがないといけない、一過性で終わってはいけないという懸念をなさいました。天気も悪かったということもありますが、去年の上杉まつりは前年よりお客さんが減ったとのことでした。上杉まつり関係で去年も同じ質問をしましたが、祭りの在り方について、市長は参加型の祭りというものも考えてみるとおっしゃっていました。毎年、お祭り開催の前に記者会見をする訳ですが、今回の祭りのときには、コンベンション協会の会長が完成された祭りだから、手の入れようがないというようなことを言っていました。上杉まつり全体では、人は変わっているけど内容は毎年一緒ですよ。その辺は地元の人たちはどう考えているのかなと非常に疑問なのですが、これまで何か変えるという機運はなかったのか、変えようという声はあるんだけども実行に移せないのか、その辺はどうなのでしょう。

○市長

上杉まつりのメインは2日夜の武てい式と3日の川中島合戦ですが、武てい式も川中島合戦も大きく変えるということは確かに難しいと思います。ただ、参加型と私が申し上げているのは去年あたりからですが、今回、夜の武てい式には鹿児島をはじめ様々な場所から参加する方がいらっしゃいました。インターネットでの募集もかけておりますので、初めての方々もおいでになりますし、毎年リピーターとして参加している方もいらっしゃいます。少しお話しを聞いてみると、川中島合戦にも出るということでありましたので、少しずつではありますが、武てい式や川中島合戦に参加するという方も増えてきていると思っております。今回、パレードの中では、先手の大将が外国人ということもあり、そういった意味でも、他の地域からの参加者、あるいは外国人の参加者も増えてはきていると思っております。

ただ、会長がおっしゃるように、武てい式や川中島合戦については確かに完成型のお祭りなのかもしれません。しかし、それだけではなく、プラスアルファとして「和

庭」などの周辺を整備し、去年より米沢変わったなというところを見せていくことに、我々は努力していかなければならないと思います。どこまで皆さんに興味を持っていただけるのかということには分かりませんが、例えば、今年取り組んだものとして、平洲椿を植樹させていただきました。大事なのはそういったものを植樹するにしても、上杉の歴史や文化とどう結びつけ、ストーリー性のあるものとして発信していくかということです。多くのお客様にきていただくためにはそういったことも目に見えるようにしていかなければならないのかなと思っております。

しかし、米沢の皆さんは上杉まつりをどのように見ているのかということになると、完成型のおまつりですから毎年同じだろうという意識はあるのかもしれませんが。人口減少もあり、ますます参加していただける学生も少なくなってくると、武てい式や700～800名が参加する川中島合戦は非常に厳しくなってきましたので、より多くの市民や学生に参加していただくような方向にもっていく必要はあると思っております。

そういった意味でスタートしたのが民踊流しです。私がいつも言っているのは部長は参加しなさいということです。そして、米沢市役所厚生会が最大の出場を誇って、市民の皆さんにPRの手本を見せなさいということで、職員自ら参加するということとは常々言っております。

○記者

関連の質問です。私は今回初めておまつりを見ましたが、民踊流しに始まって、武てい式、そして出発式から馬に乗ってということで、市長ご自身がおまつりに参加されているのだなと思っておりました。市長はどのような想いで上杉まつりに参加されているのでしょうか。

○市長

私の場合、武てい式に参加して40年近く経っております。私の中には、上杉まつりには何らかの形で参加するのが当たり前だという意識もありますし、元々おまつり好きの性格ということもあるのかもしれませんが。市議会議員の時には、民踊流しに甲冑を着て参加したこともありますし、県議会議員時代は、県議団の代表もしておりましたので、山形の花笠踊りに参加したこともありました。このようなこともありましたので、おまつりに参加することについては全く違和感がありません。市長だからということではなく、米沢人として参加するのは当たり前だろうなという意識があります。

○記者

馬にも自然に乗れますか。

○市長

市議会議員の時に、3人ほど乗馬の参加枠があり、その時に初めて馬に乗りました。馬というのは賢い動物で、乗ったことがない人間はすぐに分かって、まともに歩いてくれず最初は斜めに歩いていました。そこから何十年も乗っておりますので、馬に乗るのは慣れました。

○記者

上杉文化エリアの整備ということをおっしゃられた訳ですが、NHK放送局について移動すべきだという声も地元から出ており、市長はその辺についてどうお考えでしょうか。

○市長

この点については就任してすぐに、NHKと交渉に入っております。ただ、難しい問題もあって、それをどうクリアするかというところで、早い時期に結論を出したいと思っております。特に、御堀端史蹟保存会からもいろいろなご要望をいただいております、この前もお話しをしました。

○記者

それは移転地の問題でしょうか。

○市長

移転地の問題も含めてです。米沢市として移転場所は提示をしておりますが、米沢市とNHKとの間でクリアしなければならない問題もあります。

○記者

費用負担の問題ですか。

○市長

負担の問題も当然あります。そういった問題も抱えながら、なるべく早めに対応していきたいと思っております。

○記者

早めにとというのは今年度中ですか。

○市長

NHK側としても、どうできるのかということもあると思っておりますので、それ以上のことはまだ交渉中ですから、控えさせていただきたいと思っております。

○幹事社

その他について、よろしいでしょうか。

○記者

武田 徹さんが鷹山公の本“Yonezawa Transformed : A Life of Yozan” (2019)を書きました。そして市長が最初の推薦の言葉を出しており、かなり褒めておられますが、拝見してどのような感想でしょうか。

○市長

正直に申し上げますが英文は読んでおりません。読んでおりませんというより、私の能力では読むことができません。ただ、内村鑑三さんが『代表的日本人』の中で上杉鷹山公を紹介されたということについては、非常に鷹山公を誇りに思っています。そういった内容をジョン・F・ケネディがお読みになって、最も尊敬する政治家だということを行った、言わないという話がずっとありましたが、キャロライン・ケネディさんが駐日大使として米沢市にいらっしゃった時に、「確かに父はそう言っておりました」ということでありましたので、それは間違いないだろうと思っております。そういった

内容的なことは書かれているのだろうとは思っておりますが、やはり、我々が小学生の頃から体育館には謙信公と鷹山公の肖像画が飾られており、鷹山公については、教育の一環としてこどもの頃から教わってきたということもあります。そして、これからの米沢市のブランド戦略も、鷹山公の精神をベースとした「挑戦と創造のあかし」というスローガンを掲げて、地域づくりを行っていかうという取り組みであります。聞くとところによると、企業経営の中で鷹山公の精神について、社外教育の一環として用いられているとのことで、そのようなことも考えると英訳された内容がどのようなものかは分かりませんが、市長として、鷹山公の教えやまちづくりもしっかりと見習っていかないといけない、そういう想いも受け継いでいかなければならないと思えます。

○記者

改めて、このような書籍の出版については評価するということですね。

○市長

はい。米沢市の学生の学びの一環として、これをどう導入できるかについては、教育長とも話しをしております。また、今週末には東海市市制施行50周年記念式典もありますので、こういったものが出版されましたということで、東海市長にもおあげしたいと思っておりますし、また、現在、東海市から修学旅行生が来て、普門院や羽黒神社で勉強しており、これについては武田さんからおあげするというので、秘書広報課の方とやり取りしていると思えます。

さらに、先日、香港テレビ局の方にもおあげいたしました。今、中国や香港では教育というものが、余りにも過激に受験競争になっており、精神的なものが失われているということも、実は今回の香港出張でテレビ局の方々と話しをしてきて、教育旅行的なものも米沢で整備されるのであれば、是非、米沢で行いたいということもありました。せっかく英訳していただきましたので、米沢市民向けだけでなく、どうやってインバウンドにつなげていくかということについても良い教材ができたなど心から感謝をしたいと思えます。

○記者

具体的には決まっていないが、教育現場やインバウンド的な活用は探っていきたいということですね。

○市長

はい。武田さんからご寄贈いただいた訳ですが、幅広く多くの方々に読んでいただけるということになると、いつまでもご寄贈ということにもいかないでしょうから、武田さんとお話しをさせていただきたいと思っております。

○記者

武田さんは福島にいたときに、題材は鷹山公ではありませんが、英文で教材を作っておりました。これを読むとやはり教材のような感じで作っていることが分かります。

○市長

読めるのですか。

○記者

英語専攻でしたから。例えば、鷹山公とゆかりのある興讓館で行うと非常に話題性がありますよね。

○市長

米沢では藩校興讓館が教育の原点となっておりますので、それは私が言うのが良いのか教育長が言うのが良いか分かりませんが、話しはしております。

○記者

教育長とは話しをしているのですか。

○市長

はい。

○記者

それでは、実現した暁にはご推薦の言葉を英語でお願いいたします。

○市長

英語を話せる職員もおりますので、検討してみます。

○幹事社

他にいかがでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、これで令和元年5月の定例記者会見を終了いたします。